

あつる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

札幌を首府に

開拓初期、札幌は原始の姿をそのままとどめる茫漠たる大原野だった。そんな所に北海道の中心を考えた最初の人間は誰だったのだろうか？

それは一八〇七（文化四）年、幕府の命令で蝦夷地の探検を行った近藤重藏だといわれている。近藤は帰還後、石狩平野が「蝦夷第一等の板要な地である」として、樺戸・高島・小樽内・札幌付近のいずれかに首府をと意見書に記している。

それから五十年後、三年間に渡って蝦夷地を調査した松浦武四郎らは、首府の位置をさらに狭め、札幌豊平の辺りが箱館にかわる首府の地として最も適当だと函館奉行に建言している。札幌を首府にすれば、石狩は日ならずして大坂並みに繁盛し、十里さかのぼった対雁は伏見と同じような場所となり、そこから舟で三里の札幌は東京のように立派な都になる。そうすれば勇払東海岸は北陸・山陰、手宮・高島は兵庫・神戸の港のようになるだろう、と武四郎はかなり札幌に惚れ込んでいた。

開拓使判官島義勇

明治二年開拓使判官となった島義勇は「地勢最も絶好——誠に松浦君御見込みの如く蝦夷地のうちここを除き、またほかにも求むべきの場所たどえてこれなしと存じ候」と東京の留守居役に宛てた手紙に書いている。

北海道の首府建設は急がれていた。

北の防衛のため北海道開拓は緊急な要件であり、中心となる移住地が必要だったのである。

さらに東京遷都にも関係があった。明治新政府が京都から首都を移そうとしたとき、候補になったのは大坂・伏見・桃山そして江戸。江戸遷都論者の一人、のちに日本の郵便制度を創設した前島密は、「蝦夷開拓に伴い、江戸は日本の中央になる」と、東京遷都の理由の第一に挙げている。

これに賛成したのが、江藤新平・大

北海道 歴史秘話 9

東京が首都になったのは 北海道開拓の おかげ？

幕末、薩長が倒幕に成功し、新しい国づくりが進められていた頃、遷都論が囁かれた。大久保利通らは当初「大坂」への遷都を検討していたが、結局江戸になった。その理由の一つに蝦夷開発の拠点として適するというのがあった。北海道を含めた場合、日本の中心地は大阪より東京になるからである。北海道は東京遷都において関係があったのだ。

木喬任ら島判官と同じ佐賀藩出身者。

つまり、島は江戸遷都論を主張した江藤・大木ら同じ佐賀藩人の面目を立てるためにも、東京を予定通り日本の中央とすべく、蝦夷開発を急がなければならなかった。

解任

札幌開発に打ち込んだ島。開拓使長官東久世通禧の命令を無視して、開拓使予算をドンドン使った。ムツときた東久世が、「カネを使いきる。いうことをきかない」と政府に島の処分について掛け合った。この結果、島は東京に呼び戻され転任の辞令を受ける。札幌開発の着手からわずか三カ月。「同人会計出入成算至疎漏」と東久世長官にいわれ、島は「燕雀いずくん



島義勇

ぞ鴻鵠の志を知らんや」（小人物は大人物の遠大な志を知ることができない）と開き直るしかなかった。

兵部省の意地悪

島を追うことになった遠因に兵部省の意地悪があった。

島一行は明治二年十月、銭函に仮役所を置いたが、銭函は兵部省の管轄地。しかし島は、兵部省に届け出をしなかつ

た。怒ったのが兵部省出先役人の井上弥吉。井上は「維新の功労者は我々」と自負する長州人。佐賀出身者に大きな顔をされてはという気持ちから「開拓使の役人どもには一俵の米なりとも売ること相ならん」と地元民に申し渡した。兵糧攻めである。島は案内役に頼んだ篠路の早山清太郎からアワを提供させ、ようやく飢えをしのいだ。しかし、それにも限度がある。島はカネに飽かせて食料を買いあさるよう手配する一方、石狩・後志地方の場所請負人を軒並み権少主典に任命した。漁期に備えて備蓄している米を吐き出させるための奇策である。場所請負人が開拓使の役人になれば、米を出さないわけにはいかないだろうという島の計算。その狙いがあたって、ようやく札幌に米が流れ込むようになった。さらに、島のきつい抗議で、兵部省は明治三年一月石狩などの支配を免ぜられ開拓使直轄となる。これで開拓は軌道に乗るとみえたのに、肝心の島が同じ一月に解任されてしまふ。

北海道開拓の父

ほぼ無人の原野であった札幌に「五州第一の都」を造るという壮大な構想を描いた島義勇。北海道開拓の父と呼ばれる彼は、札幌建設にどんな構想を描いていたのであろう。道都札幌への道を開いた島は、明治七年、佐賀の乱で斬罪梟首となる。命日の四月十三日、その功績を偲び、北海道神宮で毎年「島判官慰霊祭」が催されている。

キッカケ

自衛隊の定年は五十五歳ですが、定年の一年半前に半月板を痛めてしまい、そのリハビリに自転車をやろうかなと思いついた。思い立ちロードランナーを買いました。それまで自転車はママチャリ程度のもので、走っていてもキツイだけで楽しなかった。それが、ロードランナーにした途端に、自転車ってこんな楽しいんだと。スピードが全然違いますから。

定年だし、何かできないかなと思ってた時だったので、自転車で日本一周、これ面白いと思った。日本一周といってもどこを回るか。

まず日本の東西南北の端に行く。あとは私の思い出の場所。それに坂本龍馬に興味があるので、土佐・京都・長崎など龍馬活躍の地を訪れる。こんな具合にコースを決めていきました。

出発

私の退官日、二〇〇六年三月六日に家を出発しました。

日本一周八〇〇〇キロの計画でしたが、じゃあ一日何キロ走ればいいのか。七月一日から再就職先に出社ですから、遅くとも六月二十日過ぎには帰って来たかった。たぶん天候が悪いとか体調を崩すとかで、二〇%ぐらいの予備日は絶対必要だなと。計算すると一日平均八〇キロくらい。雨が降っても走り

ましたね。日数が足りないんですよ。あと何日余裕があるのかと、そのことばかり考えていました。

ブログをつけていますから着くところの日の行動を整理し、日記をつけ、ネット上に発信。それから自分でご飯をつくって、風呂に入って、どこまで行くか、どの辺で泊まるかと明日の予定づくり。

泊まりは一応野宿がベース。だけど野宿をする場所が無い時は、ビジネス旅館に泊まったり、ユースホステルに泊まったり。いろんな人と交流が図れますから。

印象に残ったのは場所じゃなくて人な

事故

実はそのとき日本一周できなかったんです。フェリーで大洗まで。そこからずっと南に下って九州最南端の佐多岬、最西端の長崎県神崎鼻、それから日本海側を上ぐるところまでは順調だったんですが、出発から二カ月たった五月八日に山形県新庄の最上川沿いで事故を起こした。トンネルを抜けてすぐの所にボールが立っていて、それに自転車をひっかけ、鎖骨とろつ骨を骨折。救急車で新庄の病院に運ばれました。

十日ほど入院し、帰ってきてリハビリ。一カ月後には再就職。

ブログをやっているおかげで、ケガをした時にいろんな人から激励をいただきました。やっぱりやり遂げなければゼロなんですよ。何年かかってもいいから日本一周をやり遂げたいという気持ちが沸々と湧いてきました。

再チャレンジ

一回目の日本一周はそれなりに成果はあったんですが、テーマが明確ではなかった。物足りなかった。たまたまリハビリを兼ねて北海道の歴史探索のガイドブックを見ながら近くの史跡を歩いてみると、それが面白い。そう、北海道の歴史を調べながら北海道を回ったら楽しいなと思ったんです。

そこに住んでいる人とはなかなか話

の接点がないが、歴史を調べると、それをきっかけに話ができる。これいいんじゃないかなと。思いついたのが屯田兵だった。あと海岸線には伊達藩とか会津藩などの東北各藩が北方警備で入っていますから。これだと思ってちょっと勉強しました。北海道の歴史を調べ、東北の人たちが北海道でどういことをやったのかという知識を持って向こうに行けば話ができるんですね。そうすると旅が全然違ったものになってくる。

二回目は北海道と東北をトータル二カ月間くらいで回った。一回目と合わせ合計四カ月ちょっとで二万五〇〇〇キロ。内訳は日本一周と旭川・士別など北海道の屯田兵関係の所でした。

今後

自転車からは足を洗いたくないので今後も続けます。それに自分の住んでいる北海道をさらに調べてみたい。屯田兵の歴史を伝える北海道屯田倶楽部の活動にも参加し、屯田兵のことにもっと深く関わっていききたい。自転車で回るときには、屯田兵の歴史をどんどん織り込んで自転車愛好家を引き込みたいと考えています。

目的をもって自転車で乗れば面白いですよ。

中神哲二 なかがみ てつじ
昭和二十六年三月六日、石川県に生まれる。小学校から中学校まで大阪で育つ。中学卒業後、神奈川県にある陸上自衛隊少年工科学校に入校。以来自衛隊員として札幌・帯広・旭川・千歳など主に全道の通信関係部隊に勤務。



中神哲二さん

Dilettante 悠々人語録

「もっと日本のことを知りたい」と自転車で日本一周をした中神哲二さん。中神さんの人気ブログ「日本一周 by 自転車」が旅行記『日本一周 by 自転車』として単行本になりました。一度事故で挫折しながらも「北海道開拓の歴史をたどる旅」をテーマに再チャレンジ。みごと1万500kmを駆け抜けた中神さんの悠々人語録です。

あうる古今東西

文化譚

一億円の
コミックス？

長らく「愛読いただいた「マイ・オールデイズ」が、ひとまず一段落というところで、今号から新しく始まる『文化譚』。といえども偉そうに聞こえてしまいが、それほどのもでもない。国内外のニュースや記事を切り口に、知っているようで案外知られていない本の話や文化を、肩の凝らないトピックス風に紹介しようという試みである。

さて第一回は、おなじみのコミックス。アートからガラクタ同然の骨董まで、なんでもオークションで値が付いてしまふ昨今だが、先頃アメリカのネットオークションで、かの有名ヒーロー「スーパーマン」が初登場した一九三八年発行の『アクションコミックス』誌、創刊号に百万ドル、日本円にして九三〇〇万円の値が付いたという。

七十二年前のアメコミ誌といえは筆者が生まれる十年も前であることからして、おそらくは粗悪なワラ半紙に毛の生えた程度の紙面の、うすっ

ぺらな冊子だろうことは想像に難くない。それが九三〇〇万円である。

マンガオタクに、それほどの大金持ちがいるのだろうか？ などという言い方自体が古い。もはやコミックの蒐集家をオタクなどとは言えない時代にきているのだ。

それだけではない。さらに三日後三月二十六日には、ヒーロー「バットマン」が初登場した一九三九年発行『ディテクティブ・コミックス』二十七号がニューヨークのヘリテージオークションズ社の競売で、一〇七万五五〇〇ドル、日本円にして約一億円で落札されたという。

話はまだ終わらない。さらに三日後の三月二十九日には、前述の九三〇〇万円の『アクションコミックス』が、今度は一五〇万ドル、日本円で一億三五〇〇万円で、ネットオークションで落札されたのである。

世界一高価な書籍としてよく知られているのは、かのヨハンネス・グーテンベルグが十四世紀に印刷した世界最初の活版印刷本『四十二行聖書』である。

である。この豪華本は世界で四十八部残っていて、もしオークションに出したとすれば、九億円は下らないといわれる。

ただしこの聖書は革表紙、羊皮紙を使った豪華なもので、筆者もドイツの博物館で見たことがあるが、それは立派なものである。一九三〇年代のペラペラな安っぽいアメコミ誌とは比べるべくもない。

とはいえ今日では、コミックスはもう昔の「マンガ本」ではない。特に日本のコミックスの評価は、世界的に高い。外国の書籍売り場などには日本のコミックスが、一番いい位置を占めている。先日、ふみ氏のコミック『大奥』がアメリカのSF文学賞ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア賞を受賞したそうだ。これは優秀なSFファンタジーに贈られる歴とした文学賞なのだ。

モノの価値観は人によってそれぞれである。買う人間はもちろん、売っている人間はそれを保存し続けていた人間の方に興味をおぼえるのである。

BOOK INFORMATION

一冊 気になる 紹介 受書

「ビビンパ」

清水義範・著

講談社文庫
(講談社)

定価三八〇円
(税込)

一九九三年六月
発行



の端々に、なんとも庶民的でいじらしい、家族というもののいとおしさが滲み出てくる。

家族揃っての外食に張りきる父。

後先考えずに最初になんでも注文しまくるので、母ははらはらしてたしなめる。中三の長男と、小六の長女は食べ盛りだ。なんでもおいしいと言っている長女とは対照的に、長男は神経質になつて反抗期で、食べ

たことのないものには頑として手をつけない。そんな長男と「ミニニケ」

他人の会話を聞くのが好きだ。バスで、電車で、飲食店で、繰り広げられる知らない人達の、特になんといふこともないお喋り。みんなそれぞれに生活があり人間関係があり人生があるんだなあとと思う。

この短編集の表題作「ビビンパ」は、四人家族がある休日の夕方に焼肉屋に抜け、焼肉を食べる、ただそれだけの光景を描いた作品である。しかしそこで交わされる普通の会話、連れの会話を聞いているかのように、

交わされる言葉が生きた会話として心に入ってくる。軽快で可笑しく、微笑ましい。

この短編集には他にも、毎年の年賀状のやりとりだけで双方の人生を綴った、一年おきの会話が奇妙な「謹賀新年」、インターネットのチャットの中で展開していく感動の再会を描いた「噂のチャット」等、切り口が新鮮で、多彩な作品が収録されている。面白おかしく読めるので、あまり本を読まない人にもお勧めの一冊。(H)

札幌文学



札幌文学は一九四九(昭和二十四)年十一月、西田喜代司、木村不二男、橋崎政、八重樫実、増井廉、西村真吉ら同人十三人によって創設され、翌五〇年一月に創刊号が出た。文学的な主義・主張は特に持たず、なんの拘束もなく発表させようという編集方針で、創刊号には小説七編が載せられた。

その後、号を重ねるにつれて道内作家の実力者、有力新人が加わって実績を増し、二年後の一九五二年までに十号を出した。この時点での同人は四十人で真崎晋吾、山田昭夫、吉田十四雄、澤田誠一、野間美英、梅田昌志郎、中澤茂、高橋揆一郎、平忠昭、健富義夫らの名が同人名簿に見える。

十号以降は「北海道で文学する必

至さが、存命的に意識されているものでありたい」と説く澤田誠一が発行・編集責任者となった。これ以後「札幌文学」を足場に中央文壇への進出を果たした人を含め、さまざまな人が足跡を残している。赤木三平、猪俣庄八、可知春於、木野工、上西晴治、小檜山博、小松茂、枯木虎夫、助川徳是、佐々木逸郎、刺賀秀子、柴原美江、鳥居省三、西村信、野田寿雄、原田康子、寺田京子、牧野法郎、鎌田純一、向井豊昭、東直己など多彩な顔ぶれである。

同人雑誌は文学人生の縮図だと言った人がいたが、そうした先輩たちによって札幌文学が築かれ、優れた作品と共に多くの作家を輩出してきた。中央公論新人賞(一)、読売新聞短編小説賞(一)、泉鏡花文学賞(一)、伊藤整文学賞(一)、北海道新聞文学賞(八)、北方文芸賞(二)、鉄道文学賞(二)、銀華文学賞(一)などの受賞がそそぐであり、受賞は逸したのが芥川賞、直木賞候補に擬せられた作品も出た。

いま、道内外を問わず同人雑誌は同人の高齢化などで終・廃刊、あるいは同人減少で衰退状況にある。実は札幌文学会も十年前には同人わず

か七人になって終刊が議論された。ところが七、八年ほど前から同人が急に増えはじめた。以前から札幌文学は新人育成の場ではない、実力のある同人が優れた作品を発表する場、と言われてきた。それが文学をを目指す新人にも門戸を広く開放し、作品発表の場を与えるという編集方針に変わった。それが功を奏したのか二十代の女性も加わり、男性中心主義的な札幌文学は彩り豊かな同人雑誌に変貌、今は在籍同人も二十五人を超え、五年前から年二回発行が可能になった。

同人雑誌の灯を守りながら、文学を目指す新人たちを迎え入れて発表の場を提供する。やがては純文学系の伝統ある北海道の同人雑誌という誇りを持ちながら、厳しい風土の北海道でなければ生まれにくい作品、北海道を書きながら日本全国に通じる作品を書いてもらう―これが札幌文学の編集方針である。

四月早々、創刊六十周年記念と銘打った第七十五号を発行した。創刊六十年という節目を祝う連帯感が執筆意欲を沸き立たせたのか、小説など十九編が寄せられた。

創刊号からの総目次なども特集として載せたので、同人雑誌ではちょっと目を引く三百四十四頁の豪華版(?)となった。十九編いづれも創刊六十周年記念号にふさわしい力作揃いである。

(札幌文学 田中和夫)

「第二回」に響く… 北のエンターテインメント大募集

うれしかった、あの時あの人のひとこと
思い出すだけでころがアツたかくなる体験
あなたが「感動」した「教訓」を受けた
「小さな出来ごと」を募集しています

- 最優秀賞「北海道知事賞」(一名) 三十万円
- 一般部門
- 優秀賞(一名) 十万円
- 佳作(三名) 各三万円
- 高校生・中学生・小学生部門
- 優秀賞(各一名) 各三万円相当の旅行券または図書券
- 佳作(各一名) 各一万円相当の旅行券または図書券

- 応募部門…(一)一般(大学生、専門学校生含)
- (二)高校生部門 (三)中学生部門 (四)小学生部門
- 応募資格…北海道現在住者に限りです
- 応募条件…応募は北海道での出来事で一人一作品とします。あなた自身の体験で未発表のもの。ハ

- 〇〇〇〇〇〇〇〇字以内厳守。郵便番号・住所・氏名・年齢・職業(学生は学校名と学年)・電話番号を明記
- 応募締切…平成二十二年七月三十一日(土) 必着
- 発表…平成二十二年九月上旬
- 表彰式…平成二十二年十月三十日(土)

- 審査委員長…木原直彦(文芸評論家) 審査委員…田中和夫(作家、久住邦晴(北海道書店商業組合理事長)、岡部康彦(北海道印刷工業組合理事長)、福島博志(㈱日本グラフィックサービス工業会北海道支部長)、池田哲(株式会社サクマ取締役会長)

作品提出先・お問い合わせ

「心に響く」北のエピソード実行委員会

〒〇六四一〇八〇八 札幌市中央区南八条西六丁目北海道印刷工業組合内

TEL: 〇一五六二一六〇七〇
FAX: 〇一五六二一六〇七二
<http://www.print.or.jp>



■編集部から「同人雑誌に関わっている人たちの交流を図り、互いが元氣付けられ、競い合い継続発行を願って」「札幌文学」田中和夫さんの呼びかけで、昨年札幌地方同人雑誌懇話会が立ち上げられました。8月札幌地方同人雑誌推薦作選集刊行、9月紀伊國屋書店札幌本店で札幌地方同人雑誌展開催を予定しています。北海道の同人雑誌は中央文壇で活躍している優秀な作家を数多く輩出してきました。これを機に各同人雑誌が競い合い北海道文学界を牽引し続けることを願っています。小誌今号から北海道同人誌紹介を連載。(K)

●発行・編集／中西出版あうる編集部
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
TEL (011) 785-0737 FAX (011) 781-7516
URL: <http://owl-online.jp>
E-mail: owl@nakanishi-shuppan.co.jp

●発行責任者／林下英二
●発行日／2010年5月31日 ●デザイン／上野修一



ホームページへ
アクセス!